

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292500121		
法人名	有限会社プライムライン		
事業所名	グループホームちびき		
所在地	〒039-2683 青森県上北郡東北町字大平1番地115		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節や行事などに合わせて、館内の展示物を変化させることで入居者様に季節の移り変わりを感じていただいている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内に平屋建てで2つのユニットがホールを挟んで配置され、双方向に行き来できる造りになっている。内部は落ち着いた雰囲気と清潔感があり、共有スペースも明るさや温度管理を行い、過ごしやすい空間になっている。コロナ禍で地域住民との交流や、家族の面会に制限はあるが、入居者の健康を第一に考え、状況に応じた対応で運営されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議などで心掛けるように話している。	開設当初に決めた、「介護は顔で」の理念を申し送りと会議で確認し、日々のケアで実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容院は来所され交流できているが、コロナの件もあり、以前より交流の機械がない。今後、状況により改善できるようにしたい。	コロナ感染防止のため地域との交流は出来ていないが、2ヶ月毎に地域の美容室の方が訪問し、機会を活用した交流を図っている。徐々に夏祭り等で地域を巻き込んだ行事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナにより、地域との交流の場ができなかった。今後、増やしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナにより、資料の郵送での対応をとっている。今年四月からは、開催できていたが、8月～9月にかけて館内でコロナ発生したため、隔離状態となり、9月開催は郵送対応している。	4月から対面で実施していたが、8～9月にかけて事業所内でコロナ感染拡大し、以降は資料送付で対応し、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナの状況やワクチン接種の調整など連絡をとり対応している。	マイナンバーカード申請や、ワクチン接種の問い合わせなど、解らないことはいつでも関係機関に相談できる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、理解していただくようにしている。今年度は、新型コロナ発生もあり研修をまだ実施できていないので、今後定期的に開催していく。	委員会を中心に普段のケアの振り返り、検証を行っている。急ぐ場合は申し送りで状況把握し、その都度改善を図っている。また、定期的に研修会を行い、全体で取り組めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待委員会を定期的に開催し、各にユニットのケアサービスの状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会を開催できていないので、今後、開催できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族へ、入居時の説明やご家族からの相談や不安感を確認し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの状況により、ご家族との機会が減っている為、今後改善していきたい。来所時などには、話す機会を設けている。	利用者からは日々の生活の中から聞き取りし、家族には面会や支払いで来所した際に意見を聞くよう努めている。出された意見は申し送りで話し合い、ケアに取り入れられるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、申し送りなどで意見交換をしている。また、ユニット会議も実施している。	会議や申し送りの他に、休憩中の会話も活用し、雰囲気を変えて意見を出しやすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、評価や個人面談の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けるようにしているが、今年度はコロナの影響もあり、あまり出来ていない為、今後実施を図っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の研修会などに参加しているが、コロナの影響もあり参加出来ないことが多かった為、今後参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族やご本人から聞き取りを行い、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時に自宅での家族とのかかわり方などを確認したり、入所後の対応について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご家族と本人の意見を確認し、今後どのように対応していくかを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃除や洗濯などの手伝いや軽作業に参加していただく機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況報告や電話、来所時にご本人について話し、ご家族の要望や意見も聞くようにして対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前までは地域の方や知り合いなど面会などもあったが、コロナ以降減っているので関係をまた増やしていきたい。	コロナ感染状況により方法は制限されているが、電話や同じ敷地内の高齢者住宅の方と行き来するなど、馴染みの人や場所との関係性の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者同士の関りを把握し、席替えをしたり、コミュニケーション時の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所時も今後も相談対応することを伝え、対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナの状況で対応が困難になっているが、以前までは外出や外泊などご家族と話し合いながら対応している。	利用者の生活を通じた観察と、日常の会話から意向を引き出し把握に努めている。家族から生活歴や入居前の生活などの情報を得て、個々の思いを推測しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や担当ケアマネに確認して、どのように過ごされていたかなど確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況などケースに記録し、また介護日誌などにも記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットで会議を行い、課題を上げ、ケアの確認などを行っている。	担当スタッフが課題分析シートを作成し、会議で他のスタッフに意見を求め、検討している。それを計画作成担当者が、家族の意向も含め集約し、ケアマネジャーが計画作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別におこなっている。また、介護日誌などにも記録し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と電話や面会時、状況報告書など活用し、ご本人の状態を把握していただいている。コロナにより以前よりも柔軟に対応できていないが、今後改善していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの状況により、地域との連携が難しくなっている。地域の美容院が定期的に来所され、コミュニケーションをとられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人さまが希望やご利用されていたかかりつけ医を利用している。	入居前のかかりつけ医を事業所対応で受診できるよう支援している。他にも事業所が契約した医院が2週間毎に往診してくれ、夜間いつでも相談できる体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務や申し送りにおいて、看護職員との情報共有はできている。また、定期的な往診もあり、情報交換できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師と協力医療機関で情報共有はできている。また、入退院時、情報交換もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に確認書などで説明をし同意を得ている。	利用者の多くが病院看取りを希望しているが、看護師が勤務するようになり、主治医や家族と相談し看取りが行えることを説明している。看取り研修を行い、スタッフの不安解消にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はできていない。今後、訓練や研修の機会ができるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している施設と協力体制はできているが、コロナの状況により訓練ができていない。今後、実施していきたい。	これまで火災想定を中心に訓練を実施している。今年度はコロナ感染拡大等により実施できていないが、今後実施予定である。災害に備えた備蓄の持ち出しや活用について、スタッフは把握しており、賞味期限管理も行っている。	火災だけではなく、地震など自然災害を想定したシステム作りをしているため、今後の対策に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のご家族の話など周りに聞かれたくないことなど他の利用者の前で話さないように対応している。	トイレへ案内する声掛けや、居室ドアの開閉など、プライバシーと尊厳に配慮したケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に食べたいものや着たい服などを聞いたり、外出の機会など希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などご本人が入りたくない場合など、別の方に変更するなど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や就寝時などに何を着たいかなど確認し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった食物を提供し、楽しんでいただいている。食後のテーブルふきなどを手伝っていただいている。	献立はその日のスタッフが考え、買い出しと調理を行っている。利用者の希望や嚥下状態に応じた食事提供の他に、訪問歯科の活用で食を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の確認を毎日確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンなどを確認し、定期的にトイレ誘導や声掛けをして支援している。	おむつに頼らず排泄できるよう、身体状況に合わせた介助でトイレでの排泄を支援し、自立を促している。自然排便ができるよう、食べ物や運動などで工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄をチェック表へ記入し、排泄状況を確認できるようにしている。また、食事面でも季節の野菜などなるべくとれるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ユニットで入浴日など調整し、決めている。また、ご本人の状態や希望も確認するようにしている。	週2回の入浴を基本としているが、気分に合わせて、時間や曜日変更に対応している。リフターを設置し、立位困難な方にも入浴が楽しめる設備が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者は、日中帯も自分のペースで居室でゆっくり休むようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師により、服薬の管理ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は、塗り絵や歌をみんなで歌うなどしてすごされている。また、野菜の世話や洗濯物をたたむなどしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスの状況により外出支援ができていない。今後、状況を確認しながら、増やしていきたい。	コロナ感染状況が落ち着かず実施できないが、プランターでの野菜作りをはじめ、敷地内で出来ることを工夫し実践している。今後は以前同様、近所の散歩や買い物再開する予定である。	利用者の活動や地域交流に繋がれるよう、感染対策を行いながら、少しずつ外出の機会が増えていくことに期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人と話し合い、おこづかいを持つようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者やご家族の希望があれば、電話をするなど支援している。また、毎月ご家族あてに状況報告書を郵送し、入居者の日々の状況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事などに合わせて、館内の展示物を変えたりしている。	廊下やホールに季節ごとの装飾を行い、季節を感じられるよう努めている。冷暖房管理は温度計の値を確認して調整を行っている。また、加湿器を設置して乾燥を予防し、快適な空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのグループに席を分けて、気の合う方同士で居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具などを使用し、本人の過ごしやすいようにしている。	入居時は自宅で使用していた家具や慣れ親しんだ物の持ち込みを推奨している。位牌など大切にできるよう環境を整え、居心地の良い空間への配慮に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や部屋の場所などわかりやすくしている。なるべく、自立して行動でき利用に工夫している。		